

授業概要

本講義の目的は、実際のデータを分析することによって、経営の現場で用いられる統計的な手法を学ぶことである。そのために、まずは測定値が観察される背景、つまりデータが発生する確率的な基礎を理解する。続いて、平均値や標準偏差などの基本統計量などについての算出方法やその性質も理解する。もちろん、そうした基本統計量も確率的な誤差を持っているので、そこから得られる統計量の検定と推定も理解することになる。それらを十分理解した暁には、需要の価格弾力性の概念を理解し、需要分析と需要予測についての考察をし、実際のデータから、商品がどれだけ売れるのか、あるいは売れないのか、さらには、どうしてその商品が売れるのか、あるいは売れないのか、についても分析をする。

授業計画

第1回	ガイダンス
第2回	確率論の基礎
第3回	検定
第4回	推定
第5回	相関係数と決定係数
第6回	需要の価格弾力性
第7回	価格弾力性と売上の関係
第8回	価格弾力性と豊作貧乏
第9回	価格弾力性と不況カルテル
第10回	価格弾力性と薄利多売
第11回	Excelによる回帰分析
第12回	需要の価格弾力性の算出
第13回	経営政策上の意味合い
第14回	非線形モデルへの拡張
第15回	まとめ
第16回	テスト（筆記試験）

到達目標

- 経営の現場で必要とされるデータの収集方法を、理解することができる。つまり、ネット上のどこに必要なデータが保存されているかを、理解することができる。
- 回帰分析を用いることで、需要モデルを構築することができる。
- 需要モデルを構築したら、将来の需要を予測することができる。

履修上の注意

出席を怠ると、次々と理解できなくなる。欠席をしないこと。また、ただ出席をして講義を聴いているだけでは十分ではない。ちゃんとノートを取り、与えられたデータから、自分で計算する能力が必要である。例えば、「需要の価格弾力性」とは、「需要量の変化率／価格の変化率」で計算されるが、これを計算できないようだと、講義に出席してもなにも理解を得られないだろう。

予習・復習

実際のデータを提供するので、その処理を自分でできなければ単位は与えられない。そこで、講義の内容などについて、毎回復習をしてもらいたい。

評価方法

定期テスト：60%、小テスト：20%、受講態度：20%

テキスト

必要な文献は、その都度紹介する。

- 教科書名：
- 著者名：
- 出版社名：
- 出版年（ISBN）：